

		全専攻		専攻選択科目	
環境保全学 Environmental conservation and communicative technique		1年	後期	2単位	選択 講義
		担当者(部屋番号)			
		藤 公 晴 (751)			
【 授 業 目 標 】					
<p>本講座は、環境保全をコミュニケーションという切り口で捉え、受講生の環境保全の研究にかかる言説分析能力と表現テクニックを向上させることを目的に行うもの。環境保全問題に関するメッセージを効果的に伝達するには、多様な聴衆を想定し、各問題にかかる論述やデータなどを創造的ないしは省察的に表現するコミュニケーション能力が求められている。逆に環境保全問題に関する言説を効果的に理解するには、各言説や研究で掲げられた問題とその因果関係を的確に把握し、そこで用いられたデータや分析方法、論述の構成について注意深く分析する必要がある。本講座ではこのような課題意識を立脚点に、受講生の環境保全問題に関する各自の分析能力および表現力の向上を目的におこなうものである。</p>					
【 授 業 方 法 】					
<p>主に課題文献に関する各自の読解・分析を他の受講生らと共有するディスカッションを中心に行う。教員による知識や情報の伝達型でなく、各課題にかかる受講生の考察などを積極的に共有するセミナー形式を想定すること。受講生は、毎週70ページ前後の文章を読み、それらに関する個々の分析・考察についてディスカッションを通して共有し、文章化する作業が求められるので、その点を留意すること。受講生の評価は、各講義への関与度(積極性)に重きがおかれる。また学期中、受講生はそれぞれ個人課題(修士論文のテーマを含む)を選び、一般大衆の聴衆を想定した上で、エッセイの執筆およびワークショップ用チラシを作成し、学期末に受講生同士で発表・批評し合う。</p>					
【 授 業 計 画 】					
<ol style="list-style-type: none"> 1 概要説明。自己紹介。リーディングについて。出欠や課題、受講にかかるルール説明確認。簡単なグループディスカッション。 2 研究思考の構造と背景 3 ケーススタディ カーソン「沈黙の春」 個人課題企画書の提出 4 カーソン 続き 5 科学と語りの領域：科学の領域とは 6 科学と語りの領域：二つの思考・認識論 個人課題中間報告 7 科学と語りの領域：レトリック、言説、社会構築論アプローチ 8 不確実性、リスク、コミュニケーション：科学、環境問題、メディア 9 不確実性、リスク、コミュニケーション：客観性、環境アセスメント、予防原則 10 不確実性、リスク、コミュニケーション：専門家の関わり 環境コミュニケーション 11 伝えるテクニック：組織の変容、モデルとその応用 12 伝えるテクニック：記述、説明、論述展開 13 伝えるテクニック：図表の役割 14 課題発表1 15 課題発表2 振り返り ペーパー提出 					
教科書	数多くの図書や論文を使用するため、データ・コピーを配布する。		評価方法	1)参加度 10% 2)ディスカッション・リーダー 10% 3)書評とエッセイ 40% 4)課題ペーパーおよび発表。課題発表に対する学生間評価 40%	
参考書	レイチェル・カーソン著 青樹築一訳 『沈黙の春』新潮文庫と伊丹敬之著 『創造的論文の書き方』有斐閣の二冊は、各自購入を勧める。		留意点	スケジュールなどについては受講生数により変更の可能性あり。受講可能対象は両学年とする	